

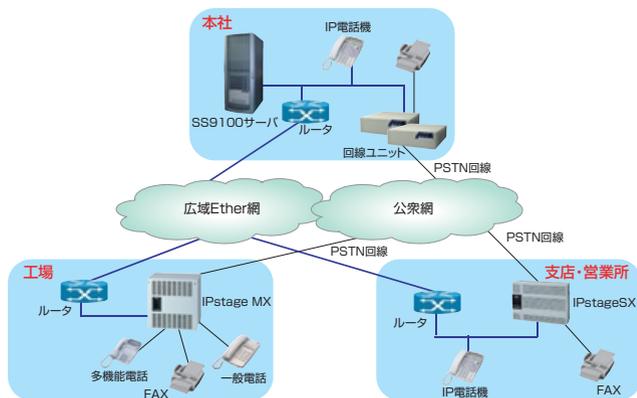
OKI

十川ゴムへSIP接続による  
VoIPテレフォニーシステムを納入

沖電気工業（OKI）は、十川ゴム（本社：大阪市西区）より、同社のIPテレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE SERVER SS9100」とIP-PBX「IPstage MX/SX」の新機能であるSIP接続により異なる拠点間でユニファイドコミュニケーションを実現する、新時代のVoIPテレフォニーシステムを受注した。同システムは、OKIウィンテックがユニアダックスと共同で設計、構築を行い、2008年2月から導入を開始し、同年3月より本格稼働する予定である。

十川ゴムでは、数年前から社内の内線電話のIP化に着手してきたが、これまではVoIPゲートウェイを用いて異なる拠点間をIP化し、運用コストを削減するだけに留まっていた。今回の導入では、当初、国内12カ所の拠点におけるPBXを統合し、一元管理する企業内IPセントレックス化が検討されていた。また、万一、拠点間のIPネットワークが断絶するような不測の事態が発生した場合でも、各拠点で独立して運用できる体系を保持するシームレスなIPテレフォニーシステムの構築が必要であると考えていた。十川ゴムでは、これらの要望が実現できるシステムとして、OKIのVoIPテレフォニーシステムの採用を決定した。

今回、十川ゴムが導入したシステムは、本社の内線電



十川ゴムのVoIPテレフォニーシステムの構成図

話をOKIのIPテレフォニーサーバであるSS9100の配下に統合するとともに、各拠点のPBXをIPstageMX/SXに切り替え、それらをSS9100にSIP接続するものである。従来システムのビハインド接続とは異なり、遠隔拠点を含む全ての拠点において、特番などの番号割付を同様の番号体系で維持管理するだけでなく、ソフトフォンやブラウザを利用したプレゼンス表示、PC画面からのクリック発信などのほか、中継台や受付機能など、OKIのアプリケーションソフトウェア「Com@WILL（コムアットウィル）シリーズ」の様々な機能を利用することができる。Com@WILLシリーズは、SS9100などのIPテレフォニー商品と連携してコミュニケーション手段を広げるアプリケーションソフトウェア商品群である。PC上でのソフトフォン機能を実現するCom@WILLソフトフォンに加え、無線IP電話機のブラウザを利用して通話相手のプレゼンス確認などのできる「Com@WILLモバイル」や、Webブラウザを利用してプレゼンス表示やクリック発信などのできる「Com@WILLアシスタント」などから構成されている。このような様々な機能を利用することで、社内全域でストレスを感じないスムーズなIPコミュニケーションの実現が可能になった。

今後、十川ゴムでは、このVoIPテレフォニーシステムとともに、工場内での構内PHSの導入や、無線LAN対応のPDAやスマートフォンなどの導入を検討中で、内線電話の更なる利便性を拡充し、モビリティ性を加味したユニファイドコミュニケーションの整備を図る計画である。様々なコミュニケーション手段をIPネットワークに統合するユニファイドコミュニケーションの実現は、個人、組織の生産性向上と競争優位確立に大きく寄与するものである。この流れは、今やグローバルな潮流になっている。

OKIでは、今回の実績を踏まえ、今後とも業務コミュニケーションの効率化を求める企業に対して、SS9100、IPstageMX/SXを用いたIPテレフォニーソリューションの提案を積極的に展開していく。

沖電気工業(株) IPシステムカンパニー  
IPシステム本部マーケティング部 TEL：048-420-7049